



この山に登ろう⑬

登山と温泉を楽しむ

ゆ き かんむりやま

湯来冠山

1004.4m

広島市佐伯区湯来町



頂上からの眺め。左端が吉和冠山。
右は人工雪のついた女鹿平山。

広島県山岳連盟 事業部長 松島 宏

登山したあと温泉に下り、汗を流して暖まって帰る。一番贅沢な登山のスタイルですね。登山と温泉をセットで楽しむのに最適な山が湯来冠山です。湯来温泉の広島市国民宿舎湯来ロッジは2009年秋にリニューアルオープンしました(写真1)。温泉や施設が新しくなり、宿の料理が充実して人気が増え、多くの人で賑わっています。また、湯来交流体験センターを併設し色々なイベントも開催されています。

湯来冠山はこのロッジの広い駐車場からの発着が便利です。下山後に温泉利用するということで駐車場を使用させていただきます。バスを使われる際はJR五日市駅南口から広電バスが平日で15便往復しており、とても便利です。

ロッジを出て、^{みのち}水内川にかかる橋を渡らず、細い旧道に入っていきます。神社と湯来西小学校の前を通過し、ロッジから800mで登山口表示のある林道を右に入っていきます。



青線は磁北線 東西約500m間隔 長さ約1kmに設定



写真1: 湯来ロッジ



写真2: ロッジから湯来冠山方面を望む



写真3: 貯水槽登山口



写真4: 社

す。400 m程登ると、貯水槽と自家用車が数台おける広場があります（写真2、3）。ここまで車で来ることもできます。ここから登山道となります。暗い杉の植林を登っていきます。小さい沢を横切り小さな神社の社（写真4）のある広場に出ます。ここまで20分。このあたりは昔集落があったみたいで、何軒かの住居跡と廃屋（写真5）があります。沢沿いの道は傾斜を増しながら標高740 mのピークに向かっていきます。ピークの左の鞍部（写真6）にでて頂上に繋がる尾根に登ったことが分かります。古い標識の残骸が落ちています（写真7）。尾根は南側が杉や檜の植林で暗く、北側は自然林で明るい感じです。789 mのピークの北側を巻きながら、どんどん標高が上がっていきます。二回程平坦な部分があり、最後の急斜面を残置されたトラロープを掴みながら登ると、自然林の小さな広場の頂上に到達します（写真8）。三角点もあります。頂上からの眺望は余り良くはないのですが、北側の正面にはもみのき森林公園の室井山が見えます。その奥に

は十方山、西の奥には頂上の形で直ぐ分かる吉和冠山や女鹿平山が見えます。東の奥には臥龍山や深入山が見えます。頂上から北に伸びる尾根にはブナの森が広がります（写真9）。



写真5: 廃屋

頂上が広島市なのが不思議な感じです。直ぐ北に芸北山地があり、標高1000 mを越えています。意外と雪に覆われることは少なく、冬場でも軽登山靴で登れます。ただし、頂上直下は急斜面ですので、下りの際には滑らないように十分気をつけてください（写真10）。下山は往路を引き返してください。

以前11月の初雪のときに熊の足跡を見つけたことがあります。登山道の西側はほとんどが植林なので餌に困るはず。自然林のある北側に生息域があるようです。熊除けの鈴を付けたりと工夫してください。標高差が約700 mあり、登り甲斐のあるいい山です。温泉と合わせて楽しんでください。

湯来温泉→(30分)→貯水槽→(15分)→社→(30分)→稜線鞍部→(50分)→頂上→(30分)→稜線鞍部→(40分)→貯水槽→(25分)→湯来温泉
往復3時間40分(標高差730 m、往復約7km)

(まつしま ひろし)



写真6: 稜線鞍部



写真7: 稜線鞍部の古い標識



写真8: 頂上



写真9: 頂上北稜線のブナ



写真10: 頂上直下を下る